

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆日本のGDP、インドに抜かれ世界5位へ IMF2026年見通し

・日本の名目GDPが2026年にインドに抜かれる見通しとなった。国際通貨基金(IMF)が14日に発表した最新の推計によると、日本は26年に4兆4636億ドルと世界4位から5位に後退する。為替が円安傾向にあり、ドル建てでGDPが目減りしている影響が大きい。日本のGDPは24年に4兆193億ドルと米国、中国、ドイツに次いで世界4位だった。

◆再生可能エネルギー、世界で最大の電力源に 石炭を逆転

・世界の電源構成に占める太陽光や風力発電など再生可能エネルギーの割合が2025年上半期に石炭を初めて逆転した。石炭の生産国である中国やインドで再エネの発電量が急速に伸びている。化石燃料を重視するトランプ政権下の米国は世界の傾向に逆行し、石炭の消費を増やしている。

◆大阪関連銘柄が大幅高 維新「副首都構想」に思惑買い

・16日の東京株式市場では、大阪府や関西圏に事業基盤を持つ鉄道・建設・金融株の上昇が目立った。自民党と日本維新の会が連立政権に向けた政策協議に着手し、維新が掲げる「副首都構想」実現への思惑買いが膨らんだ。鉄道では阪急阪神ホールディングス(HD)は前日比5.8%高、京阪HDは4.1%高、近鉄グループHDは3.8%高となった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆国内粗鋼生産10～12月、8四半期連続減に 関税影響は軽微

・経済産業省は2025年10～12月期の国内粗鋼生産量が前年同期比2.4%減の2023万トンになる見通しと発表。8四半期連続の減少。建設業界での人手不足や資材高による工期の遅れが響いているほか、自動車などの製造業の需要も低迷。米国が鉄鋼製品やアルミ、自動車など品目別に導入した関税についても、影響は軽微としている。

◆木造住宅の9月建設費指数 前月から0.5%増加—建設物価調査会

・建設物価調査会が公表した2025年9月分の「建設物価建築費指数」によると、木造住宅の工事原価指数(暫定値)は143.9となり、前月比で0.5%、前年同月比で3.1%増加した。東京都内では、人件費の高騰で塗装工事費や左官工事費が上昇したほか、カーペットや床タイルなどの値上がりで仕上工事費が上昇し、指数を押し上げる要因となった。

◆8月の機械受注0.9%減、2カ月連続マイナス 基調判断を下方修正

・内閣府が発表した8月の機械受注統計によると、設備投資の先行指標とされる船舶・電力を除く民需(季節調整済み)は前月比で0.9%減の8900億円だった。2カ月連続のマイナスとなった。製造業は2.4%減の4180億円、非製造業は6.4%減の4690億円だった。基調判断は「持ち直しの動きに足踏みがみられる」に下方修正した。

《 注目商品 》

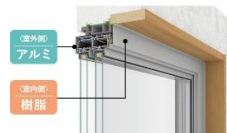
■デュラビット、高コスパ水栓「Wave」シリーズ

・ドイツのバスルームブランド・Duravit(デュラビット)から、水栓シリーズ「Wave(ウェーブ)」の日本での本格販売を開始。スリムな円筒形のベースからスパウト(吐水口)へと流れるフォルムが特徴。わずかに上向きハンドルは人間工学に基づいて設計。



■三協立山・三協アルミ、高断熱性能のビル改修用サッシ

・ビル改修用のアルミ樹脂複合サッシの新製品。Low-E複層ガラスで業界トップクラスの断熱性能H-6を実現。アルミ部分を厚くし見込み寸法を大きくすることで強度を高め、耐風圧性能S-6と独自の下枠構造と排水設計による水密性能W-5を確保。



■エディオン、ニトリと共同開発したLEDシーリングライト

・温かみのある木目調のデザインが特徴。リビングや寝室などに取り入れることで、リラックスできる空間を演出。付属のリモコンで、明るさ・光の色をそれぞれ11段階で調整できるほか、おやすみ前や集中したいときなど、シーンに合った調光・調色がワンボタンで可能。

